

日刊 動労千葉

84. 5. 31

No. 1654

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉 労働学校で

6月2日

第2回講座のご案内

今回、降旗教授には「自由主義的資本主義」が十九世紀末から「帝国主義的資本主義」へと変質していった必然的根拠を明らかにし、帝国主義の構造と本質についての説明をお願いしました。

この帝国主義の矛盾は、ついに第一次世界大戦（一九一四年～一九一八年）として爆発し、人類史上かつて経験したことのない大殺りく・破壊・飢餓をもたらします。この死と飢えと野蛮に直面する全世界の労働者・農民・人民が、戦争に反対し、支配者をうちたおし、多大な犠牲を払いながらも、ついに史上はじめて帝国主義を打ち倒して労働者・農民を主人公とした労働者国家（社会主義国家をうち立てました。（一九一七年十一月ロシア革命）

このことによつて、歴史的に破綻・死滅を宣告された資本主義は、以降、強大な軍事的・官僚的統制と極限的な国家独占形態を軸としつつ、「戦争」と「革命」の対決の時代―世界史的過度期に入っていきます。

今回の講座では、この二〇世紀の資本主義―帝国主義と現代の全体像を、わかりやすく講義していただく予定です。

三里塚闘争の正義性と処分の不当性を主張

5/23 第18回中野公判

五月二三日、「中野委員長雇用存在確認等請求事件第十八回公判」が開かれ、原告本人尋問が行われました。

動労千葉の正義の立場が、裁判所・国鉄当局を完全に圧倒

公判において中野委員長は、民衆の権利を国家権力で押しつぶす三里塚空港建設に反対する立場から、ジェット燃料貨車輸送に反対して闘ったことの正義性を鮮明にさせるとともに、「政治闘争」ゆえに権力、当局、動労「本部」革マル等、密集した組織破壊攻撃

反対尋問では「国策に協力しないのは悪く三里塚（政治闘争）を闘うなどもつてのほか」と主張する当局側弁護士に対し、中野委員長は「農民・沿線住民の生活を破壊し、国鉄労働者に危険を強制するような『国策』に対しては、これを阻止するのが国民の当然の

権利であり義務である。『国策なら黙ってなんでも従え』という国家権力のゴリ押しの方が間違っている。『違法スト』といわれようとも、間違いは間違いと主張して糾していくのは労働組合の全く正当な任務である。政府と国鉄当局の不法・横暴な人権圧殺の方こそが間違いであり、裁かれるべきである」と動労千葉の基本的立場をきっぱりと述べ、当局側と裁判官を圧倒しました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日時	六月二日(土) 13時～17時
場所	動力車会館(国鉄・東千葉駅前)
講義	「帝国主義とは―帝国主義と現代」
講師	筑波大学 教授 降旗節雄氏

(講師プロフィール)
降旗節雄(ふりはた せつお)
一九六一年 東京大学大学院経済学助
究科を経て、北海道大学助
教授となり
筑波大学教授となる。

一九七四年 筑波大学において社会学類長。
東京大学では、宇野弘藏氏
に師事し、経済理論・経済
政策を専攻。

代表的著作に、
一九六五年 「資本論体系の研究」
一九七二年 「帝国主義論の史的展開」
一九七四年 「マルクス経済学の理論構造」
一九八四年 「現代資本主義論」
などがあります。

※ なお、第一回講座出席者は、その簡単な感想レポートを制作して、当日必ず持参して下さい。



筑波大学において社会学類長。
東京大学では、宇野弘藏氏
に師事し、経済理論・経済
政策を専攻。